

# あゆみ

第72号

令和8年4月

編集&発行 行田市人権教育推進協議会



令和8年2月14日(土)に行田市教育文化センター「みらい」ホールにおいて、タレントのパッキンマックンのパトリック・ハーランさんと吉田眞さんをお招きし、行田市人権教育合同学習講演会が行われました。

パッキンマックンは、1997年に結成した、日米お笑いコンビの先駆者といえます。ラスベガスやハリウッドなど海外での英語漫才への挑戦を経て、現在も、テレビやラジオ、イベントで幅広く活躍しています。

令和7年度 行田市人権教育合同学習講演会

「パッキンマックンと考えるこれからの多文化共生」

行田市人権教育推進協議会理事 南河原小学校校長 向井 隆盛



急激な国際化が進む現在の日本において、多文化の現状をどのように受け入れたらよいのか、様々な文化的背景をもつ人々とのように付き合っていくべきなのか、漫才を通して、楽しく御教示いただきました。

講演全体を通して、多文化共生社会で最も大切なことは、「お互いに話し合っ、真ん中を見つけること」「直接、対面でコミュニケーションをとること」であり、その際の秘訣を、エピソードを交えながら、楽しく教えていただきました。

まず、言語の垣根を超え、外国の方と話すことに挑戦することです。英語はしゃべれないと考えている方が多いようですが、実は、たくさんの方を知っていて、それを並べるだけで、

かなりのことを英語で話せることに気づかされました。「私は英語がしゃべれるのだ」と、気持ち切り替えることが最も大切なのだそうです。

次に、固定観念を捨てるということです。その人の文化的背景は、外見で判断してはいけません。まずは、話をしてみるから始めましょう。外見がいわる日本人的であるかどうかで、その人の文化的背景まで決めつけてしまうと、相手に不快な思いをさせてしまうこともあります。

最後に、文化の壁を乗り越えるという事です。壁を乗り越えるというよりは、階段を上がるというイメージの方がよいとのことでした。文化的背景の違いから、違和感が生じたときに、お互いに話し合い、納得できる真ん中を見つけるように努力しましょう。

文化の壁にぶつかったときこそが異文化理解の最大のチャンスです。

言語の未熟さを恐れずにコミュニケーションをとることが、多文化共生社会をよりよく生きるための秘訣だと教えていただいた、すばらしい講演会でした。



人権尊重に対する理解を深めるため、令和7年度は全3回の行田市人権教育講座が開催されました。

第1回の講座は、9月11日、人権映画「ひまわり」沖繩は忘れないあの日の空を」の上映です。1959年6月30日、米軍のジェット戦闘機が墜落し炎上しながら沖繩の宮森小学校に激突。学童12名の尊い生命が奪われ、重軽傷者20名という大惨事となりました。二度とあってはならないのに、それから45年後の2004年8月13日、米軍大型輸送ヘリが沖繩国際大学に墜落。幸い民間人に負傷者はでませんでした。大事故となるところでした。この

**行田市  
人権教育講座**  
持田地区人権教育推進協議会  
副会長 **大木 葉子**

実際に起こった2つの米軍機墜落事故を元に、今の日本に平和とは何かを問う壮大な物語でした。一瞬のうちに多くの命が奪われてしまった事故の傷跡は深く、痛みや苦しみは映画を通して伝わり、決して他人事ではないと考えるきっかけになったのではないのでしょうか。生きていくヒマワリを見るたびに沖繩を思い出すでしょう。

第2回は、10月1日に部落解放同盟埼玉県連合会事務局長の菊地聡先生を講師に迎え「身元調査の歴史と個人情報取引の実態」と題して、ご講話いただきました。数々の個人情報不正取得には仰天します。個人情報悪用は厳しく罰せられますが、自分で責任

を持って守っていかねばなりません。漏洩の実態を詳らかに話され、知ることは守ることに繋がることを明示していただきました。

第3回は、10月23日、減災と男女共同参画研修推進センター共同代表・早稲田大学地域社会と危機管理研究所招聘研究員博士の浅野幸子先生を迎えてご講話いただきました。演題は「災害からみんなで生き延びるための人権の視点」です。避難所では安全面の配慮が欠かせないものとなります。また、災害時みんなで生き延びるためには、女性や子ども、高齢者、障がい者等、弱い立場の人がガマンを強いられない環境づくりも大事なことです。

き延びるためには、女性や子ども、高齢者、障がい者等、弱い立場の人がガマンを強いられない環境づくりも大事なことです。弱い立場からの視点を持ち、みんなで意見を出し合い常に環境改善を行っていくことも欠かせません。男女の人権を尊重して、安全・安心な生活を確保するための方法をご教示いただき、共助の意識を高めることの重要性を改めて考えることができました。



第2回講師：菊地聡先生



第3回講師：浅野幸子先生

忍・行田公民館では、毎年8月に、行田市人権・男女共同参画推進課、忍・行田地区人権教育推進協議会、忍・行田公民館共催の「人権・同和問題地区別研修会」を開催し、2月に忍・行田地区人権教育推進協議会と忍・行田公民館共催の「研修会」を開催しています。

令和7年度は、8月24日(日)に公民館ホールにて、木島隆夫先生をお招きし「珠玉のことに学ぶ」との演題で講演をいただきました。

木島先生は、元高校の美術教師であり仏教、仏像などの造詣が深い方で、仏教に絡めて人権問題の探求がなされるものと期待しておりました。先生は、「人権

**忍・行田地区  
人権教育研修会**  
忍・行田公民館  
館長 **栗原 光夫**

最後に「自分には煩惱があり、自分の行動を振り返るとおこがましく、反省することが多くて」とまとめられました。講演後に、木島先生との話で、「世界では戦争が起こっており、日本でも種々の人権侵害が起こっている。私も煩惱があり、いつも反省することが多い。でも反省することで、お互いに人権侵害を起こすことなく人間らしく生きて行けるのではないか。」ということでした。これからも公民館として、地域の皆様と協力し、研修会などを通して人権問題の解消に向けて取り組んでいきたいと思

生きる権利である。それは違いを認めあう心によって守られる。仏教の教えの根本は「諸悪莫作、衆善奉行、自浄其意、是諸仏教」であり、これを分かりやすくすると『悪いことはするな、良いことをせよ、いつも清らかにしておけ、これが大昔からの諸仏の教え』である。また、怨みをいだいている人々のあいだにあって怨むこと無く、われらは暮らしていく。想像力で相手の心を思いやること。相手の立場や心の痛みを想像することが『思いやり』であり、思いやりこそが『愛』である。」と、仏教における理想の姿をお話され、



講師：木島隆夫先生



## 1 本校の人権教育の目標

本校では、目指す学校像「輝く個性で夢に向かって歩む生徒」のもと、人権問題を正しく理解し、人権感覚を身につけ、様々な人権課題の解決に取り組み生徒の育成を目標としています。具体的には、一人ひとりの個性を尊重し、よさを見つけて褒めて伸ばす指導の実践、小中連携教育、生徒による集会運営、人権教育週間での集中的な取組などを通して、人権感覚を育み高めています。

## 2 具体的な取組

(1) 小中連携による人権教育

学期に一度、太田小学校との合同あいさつ運動を実施し、小学生との交流を通じて豊かな心を育んでいます。また、教員間では、毎年11月に合同人権教育研修会を開催し、教職員の人権意識の向上を図っています。

(2) 豊かな心を育む集会活動

水曜日の放課後を利用し、委員会主体で安全集会や除草集会を定期的の実施し、豊かな心の育成に努めています。

(3) 集会所学習の充実

本校では、定期テスト前に学力向上学級（集会所学習）を開催し、参加する生徒は真剣かつ意欲的に学習に取り組んでいます。

(4) 人権教育週間の取組

12月初めの人権教育週間に合わせ

## 太田中学校における人権教育の取組

校長 高野 明人

て、生徒会による人権教育集会を実施し、生徒会本部役員が資料を活用しながら説明し、人権意識の啓発を図っています。また、すべての学級で道徳の授業において人権教育に関する内容を取り上げ、他の職員にも公開し、互いに高め合っています。

## 3 まとめ

人権教育は、すべての教育活動を通して行われるものです。昨年度の生徒アンケートでは、「先生は私のよいところをほめてくれる」という項目で、9割を超える生徒が肯定的な回答をしました。本校の「生徒一人ひとりを大切に

する教育」が機能していると感じています。

また、生徒が優しく穏やかなのも、人権教育の成果であると受け止めています。今後も、人権教育を本校の基幹教育として推進していきます。



除草作業



生徒会による人権集会



学力向上学級

「令和7年度太田2校PTA合同人権教育研修会」を、11月8日（土）太田公民館に於いて開催しました。今年度は、行田市立教育支援センターの増田秀明先生をお迎えして「特別支援教育」をテーマに、ご講演をいただきました。

特別支援教育は多岐にわたるものですが、今回はその中でも「発達障害」に焦点を当てた内容で進めていただきました。発達障害はどんな障害なのか、かわりが難しいわけなどを、多くの事例と共に分かりやすくお話いただき、参加者も目からうろこの表情でした。

発達障害は、大きく分けて3種類あり、1つ目はLD。これは、知的発達の遅れは無いが、「聞く・話す・読む・書く」「計算する」「推論する」のうち、特定のものの習得に著しい困難を示す障害。2つ目は自閉症。これは、「人との関わり」「言葉の発達」「興味関心のこだわり」が見られる障害。最後にADHD。これは、「多動性」「衝動性」「不注意」が見られる障害であるということ、初めて知りました。

こうした障害がある子どもたちへのかかわり方について、自閉傾向の子どもには、「コップの水を減らす」ように共感することで、「気持ちを整えていける」ようにしたり、ADHD傾向の子には、注意を減らし、自己

## 太田中学校区PTA人権教育の取組

太田小学校 PTA 会長 小松 和弘

評価を上げるために褒めるようにしたり、頼りにすることなどが効果的なお話がありました。自己評価を上げるために「褒める」や自閉傾向の子どもに「共感する」などの、かわり方についての手法は、実は社会生活や会社での人間関係を円滑にしていこうえでも活用できる内容だと感じました。

講演いただいた数週間後には、行田市PTA連合会小中高連絡協議会の主催で、埼玉県立行田特別支援学校の授業と施設の見学を予定していたため、多くの気付きをいただいた研修会でした。



令和7年度

人権ポスター優秀作品



南河原小学校3年 間宮 瑛翔



太田小学校3年 三井 歩夢



忍小学校5年 新井 凛



忍小学校5年 大久保 圭



桜ヶ丘小学校6年 春日 咲良



泉小学校6年 森 愛来



埼玉小学校6年 山岸 和花



太田中学校1年 小野 凌晏



忍中学校2年 金子 怜加



長野中学校2年 富田 愛来



令和7年度 人権標語優秀作品

考えて その言葉 あなたは一瞬 相手は一生  
太田中学校3年 斉藤 妃香

その違い それが一番 あなたらしい  
長野中学校3年 栗原 麻実

気にすんな なりたい自分になれればいい  
忍中学校2年 宮尾 なずな

考えよう 一つの言葉 大切に  
西中学校1年 大嶋 愛

「それいじめ」言える勇氣と やらない勇氣  
太田小学校6年 平塚 薫

考えよう 言葉一つの 責任を  
桜ヶ丘小学校5年 坂村 優奈

ちがう色 集まるからこそ 虹になる  
泉小学校4年 竹田 心々音

どうしたの 一人じゃないよ ぼくがいる  
下忍小学校3年 関 稜真

やさしさで つながるバトン ぼくのばん  
南小学校2年 小和瀬 眞秀

あいさつで こころのどあを のつくする  
南河原小学校1年 小林 暖門

- 編集委員長 吉野 修  
編集副委員長 小池 博士  
編集委員 荻野 光男  
加賀見 春男  
菊地 三雄  
高野 明人  
松村 隆史  
松本 幸太郎  
吉田 哲

編集後記  
 昨今、己の考えや思いが絶対であり、そのために強弁・詭弁を弄し、相手を罵倒することを目的とするような、個人や集団が溢れていると感じています。  
 もちろん、自己の主張を堂々と発信することは、憲法において表現の自由として保障されていますが、相手を言い負かすことが眼目で真の目的は何なのか積然としないのであります。  
 そこには人権の観点があるのでしょうか。相手を一人的人間として認め尊重するということ、人権の意識があるのかと問いたい。  
 私たちは、この問いを物事の判断の拠り所として常に持って、行動・発言していきたくと考えています。  
 今後とも、広報紙「あゆみ」が、皆様の判断基準になりますことを願っています。  
 (吉野 記)